

情報セキュリティ基本方針

秋柚株式会社（以下「当社」）は、複雑化する社会インフラ、国家プロジェクト、および学術研究の現場において、自己言及型・状態遷移エンジン・アーキテクチャ（SRX）を用いた確かなシステムとサービスを提供しています。

当社は、事業の根幹に関わるデータ資産は、常に顧客自身の統治下（手元）にあるべきであるという「データ主権」の理念を尊重し、設計段階から本質的な情報セキュリティを追求します。当社の情報資産、および顧客からお預かりする重要な情報をあらゆる脅威から守り、社会の確かな信頼に応えるため、ここに情報セキュリティ基本方針を定めます。

1 アーキテクチャに根ざしたデータ主権の保護

当社のシステムは、データを外部環境に委ねず、顧客の自律的なローカル環境（オンプレミス等）にて完結して処理することを基本原則とします。構造そのものを独立させるアプローチ（SRX）により、意図しない外部へのデータ流出リスクを構造的に低減し、顧客のデータ主権を厳格に保護します。

2 技術的透明性と独立性の維持

当社のシステムは、特許取得済みの独自中核技術、および世界的にオープンな実績を持つ限定された基盤技術（GNU Tools 等）を中心に構成されています。ブラックボックス化した外部サービスへの不透明なデータ送信を設計段階から排除し、極めて高い「技術的透明性」と「独立性」を維持します。

3 組織的な情報管理とアクセス権の最適化

当社が取り扱うすべての情報資産に対し、適切な組織的・人的・物理的・技術的・安全管理措置を講じます。社内体制においては、業務の必要性（最小特権の原則）に基づき、プロジェクトごとの厳格なアクセス権限管理を実施します。情報資産への不正アクセス、紛失、改ざん、および漏洩等のリスクを未然に防ぐため、運用体制を継続的に監視・強化します。

4 法令・規範の遵守

情報セキュリティに関する法令、国が定める指針、その他の規範、および顧客との契約上のセキュリティ要求事項を厳格に遵守します。

5 継続的改善

現場の環境変化と共にシステムを最適化していく当社の技術運営理念と同様に、当社の情報セキュリティ管理体制についても決して硬直化させることなく、新たな脅威の出現や社会情勢の変化に応じて、自律的かつ継続的な改善を実施します。

制定日：2025 年 8 月 1 日

最終改訂日：2026 年 6 月 12 日

秋柚株式会社

代表取締役 小林 泰三